

保育計画成果報告書

法人名等	(株)ライフプラザファイナンシャルデザイン
施設名	新田チャイルド保育園
報告者（役職）	木原 真砂子（園長）
住所・連絡先	千葉県市川市新田二丁目 15 番 8 号
	☎ 047-318-3930
	E-mail info@shinden-child.jp

○タイトル（保育計画）

空にもっとも近い屋上プールで ～水しぶき裸っこ～

○主な助成備品

プール本体、スライダー、エアー階段

1. 保育計画策定の目的

毎年初夏を迎えると、私達は、夏の水遊び計画を具体的に立案します。家庭での水遊びに比べ、よりダイナミックに水しぶきを浴び、子ども同士で水の掛け合いをし、開放感に満ちた遊びを展開したい。遊びながら、「冷たい」「涼しい」「気持ちいい」「楽しい」の言葉が飛び交い、心が揺れ動く水遊びは何か、年齢別に工夫を凝らします。

当園は、園庭はありませんが、人工芝の屋上がありますので、空にもっとも近い屋上にプールを置き、子ども達が裸になって季節を肌で感じて欲しいと思っています。

平成 30 年 4 月に開園した最初の夏は、ビニール製プールで水遊びをしましたが、大きさに制限がありました。しかし、今回の助成事業エアープール当選で環境が整いました。幼児クラスが一度に入水できる大型プールは、子ども達が丸く輪になって顔が見えます。そこから水掛けが始まり、これから何が始まるのだろう、そんなワクワク感があります。

昨今、温暖化で猛暑日が続くと冷房付けになりがちで、健康な体づくりに反して汗をかかずに過ごすこともあります。子どもは太陽の子、屋上での水遊びは体を冷やし、同時に体力をつけ、絶好の親水冷房になると信じております。

2. 具体的な実施内容

0 歳児：ビニールプール使用。水遊びをして気持ち良さを感じる。

1 歳児： 〃 水を怖がらずに体全体で水を浴び、水遊びを楽しむ。

2 歳児：水位を低くしたエアープールで水遊びをする。

- ・自分の体に水をかけプールをゆっくり進む。
- ・友達と水遊びを楽しむ。降りかかるシャワーを楽しむ。

●3歳以上児のプール遊び

手 順	内 容
<p>準備体操、入水、友達と遊ぶ</p> <p>①順番にプール内に座る</p> <p>②肩、胸、顔に水掛け</p> <p>③座ったままバタ足</p> <p>④水掛け合いっこ</p> <p>⑤ワニ歩き</p> <p>⑥ゾウさんシャワー</p> <p>⑦アーチくぐり、滑り台</p> <p>⑧水遊び用品を使って楽しむ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プールの約束を守る。 ・入水、水掛けをする。 ・徐々に水に慣れる。 ・脚力を使って大きな水しぶきをつくる。 ・友達同士、水の掛け合いをする。 ・水の中での全身運動をする。 ・保育者からの降る雨（シャワー）を浴びる。 ・潜る。滑り降りる快感を味わう。 ・プール内で自由に遊ぶ。



水掛けが終わったら、思いっきり遊ぶぞ



水しぶき、平気！いやだよ！？



夏空って 気持ちいい～

●曇り空で水温が上がらない日は、こんな遊びをしました。



1歳児 カラーボールを散りばめ、色探し



2歳児 トンネルくぐり、ここに集まれ～遊び

3. その成果と評価

昨年に比べ、プールの大きさが3倍になりました。広さや水量は、初めて入水する子ども達にとって、驚きと喜びでした。「みんなで入れるね！滑り台もある！」と、ワクワクの声が聞こえます。しかし、最初から全員が水を怖がらずに楽しめるはずがありません。そこで、保育士の「(水が)冷たくて気持ちいい！」の声掛けや やり方の見本を見せたりコツを教えて、子どものやってみようかな～の気持ちを引き出しました。

回数を重ねるたびに、水に慣れてきて友達と水遊びをすることが楽しくなりました。

●成果

以下、7～8月の2か月における成果を挙げます。(3歳以上児)

目標 1. 顔を水につけられる 2. 潜れる 3. バタ足で進める

【7月初め】

怖がって保育士に掴まりながら入水
バタ足の時、水が顔にかかるのを嫌がる
顔を水につけられない
一人で水遊び
スライダーを怖がる、滑ろうとしない
手足をバタバタする

【8月終わり】

→ 一人で順番良く入水
→ 水がかかっても平気
→ 潜ることができる
→ 友達と魚探しや水鉄砲をする
→ 連続で滑りたくなった
→ バタ足で進む

●評価

水遊びを通して、子ども達は、水の冷たさ、気持ち良さ、解放感、水の流れ、浮力などを五感で感じ取れるようになりました。今までにないダイナミックな水遊びができ、水中での全身運動や身のこなし方を体得できました。保育する時は、保育設定も気持ちも、で

っかく用意しよう」と取り組んでいます。エアープールのお陰で当園の保育者の念願が叶い、一人ひとりの子どもの成長が見られた夏でした。

4. 今後の課題と展望

当園の子どもの姿の一つに、『遊べる子ども』があります。子どもは、そもそも遊びの発見者、それを保育者が助言や補助をすることで、遊びがうんと深く楽しくなりますから、保育園は生活する場である以上、遊びの場を常に提供する必要があります。

しかし、当園は園庭が無く、外遊びは近くの公園に出かけて行かざるを得ません。猛暑の折は、つかのまでも公園まで水分補給をしながら遊んで来ます。今回より、屋上に上がるだけで夏の遊びが満足できる。こんな環境に恵まれたことに感謝いたします。

夏の遊び場＝プール遊び

これから、プールが登場するたびに、年齢別の目標を具体化し、より一層力を入れていきたいと思えます。0歳児の水浴びに始まり、5歳児のバタ足で進めるようになるまでの保育を、無理なく楽しく計画して参ります。

2020.2月 3歳以上児が発表会で劇スイミーに挑戦。水中の生き物になりきった子ども達が、経験を活かしてプールで魚の如く、スイスイ泳いで欲しいと願います。

2020.7月 東京オリンピックの水泳競技を見て、自分もプールで泳げるようになりたいと思うかもしれません。もしかしたら選手に憧れオリンピック選手になりたい！と夢を大きく持ってくれそうな気がします。

最後に、大きなプールは、清掃・点検・水張りに時間と労力をつかいますが、子ども達の笑顔が見られると思うと苦になりません。今後も安全第一に、子ども達の『生きよう、伸びようとする力』に引っ張られて、保護者にも喜ばれる保育園づくりを、設立者木川代表・職員共に目指していきたいと思えます。

以上



2020.4月 開園3年目になります。